

第二次宇部市生物多様性地域連携保全活動計画（素案）に対するパブリックコメントの実施結果

1 実施概要

- (1) 意見募集期間 : 令和5年2月1日（水曜日）から令和5年3月2日（木曜日）まで
- (2) 意見提出者数 : 4人
- (3) 意見数 : 11件

2 素案に対する意見と市の考え方

項目	件数	市の考え方の区分			
		A：意見を踏まえて計画に反映するもの	B：意見の趣旨が既に計画にあるもの	C：今後の参考意見とするもの	D：その他
計画の基本的考え方と背景					
これまでの取り組みの検証	2		1	1	
計画の体系					
計画の方向性と具体的な取り組み	8			8	
計画の推進体制と進行管理					
その他	1			1	
計	11		1	10	

第二次宇部市生物多様性地域連携保全活動計画（素案）に対する意見と市の考え方(1/2)

No.	項目	頁	意見	市の考え方	区分
1	これまでの取り組みの検証	6	目標は達成しているといっても、中学校が復活出来るにはほど遠い状況である。山林や農地の保全を行うためには、生活環境を充実させることや重要な収入源として生産物をいかに流通させていくかなど、幅広い分野を対象にした魅力ある具体的な実行計画が必要。高校の再編をみても、人口密集地に統合しようとしているが、宇部西高は宇部にある唯一の農業系の科がある学校なのに、宇部市は何も言わない。教育は特に大事だと思う。	本計画では、市民一人ひとりの行動変容による、農林業が社会に根付いた環境配慮社会の構築に向け、自然の恵み体験などの環境学習会等の教育機会創出や幼少期からの人材育成の取り組みを行うこととしております。これらに加え、幅広い分野を対象とした活動の創出に向け、活動団体、関係機関、関係部署等と連携した取り組みを今後も検討してまいります。	C
2	これまでの取り組みの検証	7	重点プロジェクト3 山へお帰りプロジェクトについて 猟友会等との連携を強化する必要があります。 ※猟友会員の高齢化により捕獲数の増加は見込めないと思われるが、行政は捕獲奨励金を引き上げるなどをしてどうにか維持していることに疑問。駆除対策費が増えるために、担い手不足に対する予算の削減も行われている現実がある。	高齢化等による担い手不足を解消するため、今後も活動団体、関係機関、関係部署等と連携し、捕獲員の増加等に向けた取り組みの強化に努めてまいります。	B
3	計画の方向性と具体的な取り組み	15	過去には環境活動団体に市からの助成金が出ていたこともあったが、できれば復活してほしい	各主体の継続的な活動のため、効果的な支援の方法を検討してまいります。	C
4	計画の方向性と具体的な取り組み	17	外来生物の駆除にあたっては、行政の許可が必要とすることがあり、活動団体だけでは手が出せないと思われるため、行政が率先して計画し、活動団体の協力を得る段階に来ていると思います。（環境省も必要であれば駆除は地元自治体が行うと回答）	外来生物については、まずはその存在を脅威しないための一人ひとりの行動について、遺棄予防等の普及啓発に努めてまいります。また、ご意見のとおり、外来生物の駆除にあたって、例えば特定外来生物の運搬や鳥獣の捕獲等行政手続き等が必要となる場合がありますが、これらについては、手続きについて所管する関係機関や関係部署と連携し助言を行うなど、円滑な作業実施を支援してまいります。	C
5	計画の方向性と具体的な取り組み	17	生物多様性の取り組みに賛同する人のマッチングシステムがあるとよい。宇部市の自然の中で暮らしたい、生物多様性維持の価値観を共有できる人と暮らしたいという人を宇部市が募集し、計画素案に示されるような活動を推進してもらいながら、宇部市で暮らし、家族を形成して頂くのはいかがか。 農家や伝統工業、漁師、猟師などの後継者探し、夏休みの生物多様性が学べるショートステイ企画、ポスターコンクール等様々な切り口があるのでは。	ご意見のとおり、取り組みの推進にあたっては様々なアプローチが考えられるため、活動団体、関係機関、関係部署等と連携し、効果的なマッチング等の支援について今後も検討を進めてまいります。	C

第二次宇部市生物多様性地域連携保全活動計画（素案）に対する意見と市の考え方(2/2)

No.	項目	頁	意見	市の考え方	区分
6	計画の方向性と具体的な取り組み	17	普及啓発の方法として、ときわ公園など各地域に生息する従来種と外来種のマップ化、月1回程度の「生物多様性」講座を開講したり、生物多様性を感じる宝探しのような体験型イベントを実施してはどうか。	現在、参加者それぞれが地図上で既往の確認情報を閲覧出来る地図サービスを備えた市民参加型調査も実施されており、これらの情報発信や学習会、体験会等を組み合わせこれからも普及・啓発に努めてまいります。	C
7	計画の方向性と具体的な取り組み	18	幼少期からの人材育成について、きらら浜自然観察公園においても、来館者の多くは幼児～低学年の子供連れが多いため、宇部市の場合、アクトビレッジおのを環境学習施設として活用する方法があるが、同施設が存在がどこにも書かれていない。同施設を宇部市の環境学習施設として活用できるようにすべきと思う。	19ページに記載するとおり、現在宇部市教育委員会において市内小学校を対象とした自然体験型環境学習が実施されています。今後もニーズや立地条件、周辺環境等を考慮し、活動団体、関係機関、関係部署等と連携しながら同施設の活用を検討してまいります。	C
8	計画の方向性と具体的な取り組み	19	竹を伐採・駆除して、種々の広葉樹を植えていくプロジェクトが全国で推進されているが、生物多様性への貢献が期待できるほか、防災面でも有益と考えます。また、早成樹を選択的に植えていき、資源として利用するという方法もある。伐採作業を地域貢献活動の一環として、若い方に農業系アルバイトとして参画してもらい(J2レノファ選手等インパクトのある方々)、伐採後はエネルギー源や家具・建材としての活用するなど、多様な主体の参画が見込めるのでは。	森林の多様な生態系サービスについて、その効果を多くの人が認識・活用できるような環境配慮社会の構築に向け、その周知等に努めてまいります。また、個別の活動のなかで、早成樹等の新技術の活用について、活動団体、関係機関、関係部署等と知見を共有し、その有効性等を検証してまいります。	C
9	計画の方向性と具体的な取り組み	19	小野湖周辺区域は、一般の方にはややインパクトが弱い感じがします。多数の方に興味を持って頂く事が、「生物多様性への理解」の近道と考えるので、案内看板の設置や周辺施設、レストラン等でのチラシ配布、アクトビレッジおのでの食を扱った自然体験活動、周辺の周遊バスの運行等を実施してはどうか。	ご意見のとおり、多数の方に興味を持って頂き、関わる人の裾野を広げるためには、周知・啓発活動が重要であると認識しており、活動団体、関係機関、関係部署等と連携し、効果的な周知・啓発の取り組みを検討してまいります。	C
10	計画の方向性と具体的な取り組み	19-23	荒滝山・日ノ岳周辺、霜降山周辺、平原岳周辺、小野湖周辺の一部地域は交通の便が無く、自家用車でのみ来訪に限られるが、これを減らす事も生物多様性の促進につながると思うので、例えば、休日限定のEV車両運行等実施してはどうか。	休日限定のEV車両運行については、そのニーズや効果等を踏まえ、活動団体、関係機関、関係部署等と連携し、検討してまいります。	C
11	その他	-	一般の人には難しい内容です。多様性という言葉は便利に使われる曖昧な言葉のように思います。市民目線、子ども目線になるよう、例えば「いきもの会議」等平易な言葉遣い等の工夫をしてほしい。	市民一人ひとりに関心をもっていただく上でとても重要な視点であると認識しており、自然環境学習会をはじめとした普及啓発の取り組みのなかで、今後も一人ひとりがわかりやすい内容、表現の仕方を心がけてまいります。	C